

国際交流・韓国

「百済」はなぜ「くだら」と読むの？

国際交流員 キム アリョン 金雅英

皆さん、こんにちは！ 5月号に続き、今回も太宰府市の姉妹都市である韓国の扶餘郡に関する話をさせていただきたいと思います。

日本語を勉強している私が以前から気になっていることがありました。

姉妹都市の紹介をするたびに「扶餘郡は、古代国家・百済の最後の都があったところですよ」と話しますが、そもそも「百済」はなぜ「くだら」と読むのだろう？という疑問がいつも頭から離れませんでした。

韓国語では「百済」を韓国語の音読みで「ペクチェ」と言います。「それでは、日本語で『ひゃくさい』と読んだほうが日本語的に正しい読み方ではないかな？」と思っていたころ、ちょうど扶餘へ行く機会があり、扶餘郡内を回って見たら、구드레(グドゥレ)というところがあることを知りました。

「구드레(グドゥレ)」は、扶蘇山の西側の麓にある、白馬江とその一帯のことを言います。諸説ありますが、昔、百済と交流をしていた倭の船が、百済の都・泗泚に入っていくための窓口であった「グドゥレ」の渡し場に訪れていたことから日本人びとに伝わり、今の「くだら」になったのではないかと推測されているようです。



扶蘇山から見た白馬江とその一帯

現在、グドゥレ一帯は、白馬江と扶蘇山周辺の風景を楽しめる遊覧船の船着き場として使われており、その周辺はグドゥレ彫刻公園として造成されています。扶餘郡の人びとの安らぎの場として、また扶餘の街並みを楽しむ観光客が訪れる場所としても人気があります。

このように、日本と韓国は、古代から友好国としてさまざまな交流が行われてきました。お互いの行き来があったからこそ、現在の太宰府と扶餘の関係が生まれたのではないかと思います。

人権標語

だいじょうぶ ひと 人それぞれよ
 きにしない
 みんながきらきら
 ぼくもきらきら

国分小学校4年 ふくしま ひろとし 福島 優駿さん

季節の生け花



太宰府市華道連盟

しのはら 篠原 しずこ 静子 (国分区) 池坊
 花材 松、燕子花、夏ばたん

つれづれ

太宰府短歌会

石ひだり点字ブロックを探す杖
 手を貸す我に微笑み返す

五条 大穂 聡子

空青く山は緑のふるさとに
 母なき子となり包まれている

筑紫野市 渡辺 保子

乱れ咲く庭のたんぽぽ今日こそは
 抜かんとする手に生きてやだめ？

東ヶ丘 無相庵 真理子

奄美島の海辺に拾ふ宝石の
 やうにかがやく珊瑚の破片

五条 末房 長明

死期の眼には景色が美しく見ゆるとか
 然ればわれもわれを怖るる

春日市 山本 憲一

太宰府句会

どんたくの賑はひまとひ来し人と
 馬場 有岡 和砂

婚の日の刻々迫る子供の日
 東観世 中島 祝乃

突つ支ひ棒だらけの古木楠若葉
 湯の谷 脇山 郡司

今日ばかり姑の仕切る祭膳
 桜町 古賀 恭子

荒神輿雨を機として立ち上がり
 小都市 宮原 勝彦

飛梅句会

若草に走り来る子を抱き上げる
 筑紫野市 羽野 喜久代

歩けるを幸に野に出て春惜む
 青葉台 平野 香

若草やみどり児の肌やはらかし
 筑紫野市 淵 昭子

若草や野山に生氣あふれをり
 大野城市 福岡 とみ子

若草につつま込まれし雨の音
 筑紫野市 大瀬戸 洋子

宝満句会

出不精を誘ふがごとく風光る
 青葉台 本山 晴子

里山の灯の点り初む遠蛙
 星ヶ丘 江里口 幸生

遊ぶ子に母の呼ぶ声夕蛙
 高雄台 川路 泰子

風光り紙飛行機の宙返り
 大佐野台 金丸 恵子

高らかに選手宣誓風光る
 福岡市 工藤 友子

都久志てんじん句会

人差し指立ててもひとり花の昼
 湯の谷西 矢野 杏子

足弱に遠目なつかし山桜
 筑紫野市 津和崎 幸枝

ピアノ流るるごとく花散りぬるか
 福岡市 北川 朴洋子

ギプス外れし母新たなねぎ買ふや
 福岡市 宮津 英里子

草餅や向かふ三軒両隣
 青葉台 彦坂 正亨

太宰府川柳倶楽部

菜花一輪未練が残る母の墓
 吉松 鈴木 弘市

凶と出てこれより下はない安堵
 大佐野 小鹿野 桂

主婦の座をしばし忘れる試着室
 水城ヶ丘 植村 克志

前向きに生きて行きたい八十路来て
 都府楼 河野 治美

びちびちと雨にけだるい梅雨の宿
 観世音寺 河原 明子